

2020 年 9 月 30 日（水）18:30~21:00

富良野市立図書館 3 階会議室

1. 開会

2. 辞令交付

3. 教育長あいさつ

→少子化が加速している中で、全国の各市町村が工夫をしながら子育て支援を行っているが

- ・「未来の地図帳」を書かれている「河合雅司」さん（厚生労働省の専門委員）からの指摘の中に、「こういった子育て政策も長続きしないのではないか」「決定的なものはない」という指摘がある。
- ・なぜならば「出産可能性のある女性の生活様式の変化は止められない」「10 年で止められるわけではないし、そういった状況は続いていく、変化し続けるから」という指摘があります
- ・労働人口が減り、教育福祉に関わる人の人材確保が非常に厳しい局面にある中で、どんな施策をとっても厳しいこと変わらない状況にあります
- ・そんな状況の中で、少ない子どもたちを社会に送り出すには、色んな方々に子育てに関わっていただいて参加してもらおう視点も必要と感じています
- ・今後、提案させていただきたいのは、「地域自治」
- ・「地域の人たちが力をあわせて子育てすることを支援する」方向を提案してもらいたいと思っています
- ・この会議の目的は「子ども子育て支援事業計画」の適切な推進と事業評価を頂くとともに、効果を上げていくために、保護者のみなさまの意見を聞く場所を確保し、効果のある事業展開に結びつけていくことです
- ・様々な観点からご意見をお聞かせいただきますよう、本日はよろしく願いいたします。

4. 委員長あいさつ

→第 1 回目の子育て会議にコロナ禍の中、お集まりいただきありがとうございます

- ・今、新型コロナの影響で子どもを取り巻く環境は大きく変わっています
- ・様々な行事が中止になる中で、来年も富良野小 120 周年の式典も中止になるのではないかと
- ・また保育の現場においても、雇用の悪化、負担の増、日々の行事の開催にあたっては心痛めているかと思えます
- ・社会性・主体性を育むような教育が十分にできない状態が続いています
- ・行事の縮小によって子どもの学びを十分保障する活動ができない現状が続いています
- ・コロナ禍の中で、子育て支援のあり方について皆様からの様々なご意見をいただきたいと思えます
- ・本日はよろしく願いいたします

5. 報告事項

→事務局よりレジメの「報告」を共有 P2~P20

- ・前回 2 月の会議から「現状/これまでの経過」を共有すると共に「コロナ禍」での「子どもたちの変化」や「子育て環境の変化」にどういった対応をしてきたのか？などをそれぞれの立場でまずは共有いただきたい

テーマ①コロナ禍での子どもたちの変化、子育て環境の変化について

→各委員からの意見

山崎：学校は 4 月~5 月まで 2 か月ほど休みになり、再開した

- ・夏季休業も 10 日ほどカットして授業日数を確保する方向で進めてきた

- ・授業日数は確保できたものの、子どもたちの変化を感じている
- ・イレギュラーな休みに入ったことから、子ども同志の関わり、先生たちとの関わり、保護者と子どもたちの関わりなど、まわりとの関わりが希薄になって、子ども達が普段体験したことのないような「一人になる生活」が増え、不安になっている子どもたちが増えている
- ・特に1年生は入学してすぐに休みになったので、学校側は、行事の精選を行いながら、1年生が楽しくなるように2学期に行事を集中させている
- ・行事のカタチを変えてでも、少しでも多くの行事を経験してもらおう工夫し、楽しいだけでなく「どんな力をつけていくか」を各学校で話し合いを進めている
- ・タブレット学習の普及を進める一方で、家庭の通信環境によってはタブレット使えない地域もある。
- ・先生の研修も同時に必要と感じているが、教育委員会が早く動いたおかげで、心の準備もできて授業などにも活用中である
- ・樹海小学校の遠隔交流、東中では ICT 環境の整備を加速しているが、市全体として環境の整備を行っている最中です

桑折：経済的安定を求めて、潜在的な待機児童が増加傾向にある

- ・子どもたちは割と環境の変化にも慣れ、落ち着いてきている
- ・ただし、行事の縮小により、子ども達の育ちを大きな行事ができない中で、日々日常にどう取り入れていくか苦慮しながらも、スムーズな就学ができるように工夫している
- ・保育所は福祉施設のため、完全に閉園できないため、保育士は「自分が感染したらどうしよう」という不安と緊張の中で今も過ごしている状態

川村：0～2歳の未就学児なのでマスクなし、事業所内保育所なので休業も行っていなかった

- ・そんな中でコロナ禍を手探りで進めてきた
- ・色々な行事ができないため、夏祭りも自粛、これから行うハロウィンも高齢者施設も併設した施設のため、常にソーシャルディスタンスを意識しながら検討している状況
- ・そのため、情緒不安定の子どもも増えた気がする
- ・医療機関が隣にあるので、常に検査をしながら、チェックしている
- ・8月からPCR検査もできるようになったが、検査費用も高い
- ・結果がでるまで2日待機しなければならない
- ・看護師や保育士には、外食を控えるようお願いし、守っている現場ではストレス増になっている
- ・これから秋にかけてインフルエンザと判別つかない状況がでてくる時の対応が必要
- ・抗体検査は2000円、PCR検査は12,000円かかるのが負担大きい
- ・with コロナはこういった定期的な検査が日常になってくると思われる
- ・いずれにしても日々不安な日々を過ごしている

山崎：幼稚園は学校に準じる対応を行ってきた

- ・預かり保育はやってきたが、行き場のない人たちがたくさんいた
- ・公園に行っても見張られている状態で、親のストレスも多かった期間が長かった
- ・再開後の行事再開は初めてのことで、判断には様々な情報が必要で、各幼稚園同志で情報交換して、常に判断を求められる状況が続いている
- ・行事には、祖父母も参加したいと楽しみにしている方も多かったが、安全を最優先してリスクが高いものは断っている
- ・保育士が自分にコロナにかかったらという不安は増加し、日常の行動は規制している
- ・職員の研修も減ってきている状況
- ・最適化の判断が難しい

出合：子どもたちは、休校が長いとタブレット・YouTubeなどの画面と向き合う時間が増えた

- ・そのため、自分が主体となってやる経験が減っていると感じる
- ・これから冬の向き合い方を検討していくことが必要
- ・6月の休校があけた時、どういったカタチで学校が開くのか？保護者間で不安が多くなっていた
- ・密を避ける具体的な策を見える化してほしいと思った
- ・子どもから様子を聞くしか方法はなかったのが、保護者の声だった
- ・夏は換気できたが、冬はどうなるのか？これからコロナ禍で休校になった場合の学校からの知らせ方などに不安が残る
- ・換気・消毒・一人でたら休校なのか？そういったことがわかれば安心の基準ができるので、判断の安心基準がほしいという声があります
- ・また、室内での活動時間が増えて、運動不足でケガをしやすくなった印象がある
- ・またテレワークも増え・テレワークできない家庭のケアも必要
- ・休校によって家族と過ごす時間が増えたことはプラスの面だった

南：家で留守番が増え、タブレットやゲーム時間が増えた

- ・学童が再開してようやく日常に戻った
- ・学校で遅れを取り戻すため6時間授業が増え、子どもが詰め込み授業で疲れた状態でクタクタな印象
- ・ただ、学校でみんなと会う方がストレス発散できている
- ・今後、インフルが心配
- ・消毒・手洗いの徹底で、風邪をひかなくなった印象はある

藤野：父母会も集まれない、情報交換もできない、LINEなどの文字面では誤解も増え、幼稚園の考えもまっすぐに伝わらず、親同志のトラブルも増えたため、会って話すことが大事と痛感した

- ・自粛中は、家庭で完全に親がいない時間が増え、閉鎖的な空間・時間も増え、勉強の遅れも心配
- ・学校がベースにならないと親が勉強を教えることも大変でギスギスした空気感が渦巻いていた
- ・学校以外の活動・家庭でも自粛でできない時期が続いたため、今しかできない体験ができなく親も子どももストレスと不安が続いている

青木：休園措置はとらなかった

- ・医療関係者が多くいた為、休んでも公欠扱いにし、半数くらいしか来ていなかった
- ・6月から再スタートをきったが、2か月の発達の遅れは大きいため、1からカリキュラムを考えなければならなかった
- ・保育の世界で3密をさけることはできないので、外での活動を増やしたりと工夫をこらした
- ・こどもたちの発育には抱きしめることが大事なので、コロナ禍でも抱きしめることをやめず命がけみたいところがあつた
- ・行事関係を一から立て直すが大変であった
- ・特に運動会の経験が子どもたちにとって重要と思い、6月に開催し、秋の行事が詰め込みにならないように工夫した
- ・新たなに行事を見直すキッカケにもなり、必要のない行事も一方でわかってきた

6. 協議事項

(1) 見える化

(2) 長期的・総合的な視点

→これまでの検討状況を共有 P21~P92

- ・ 今後はコロナ禍を加味しながら新たな生活様式にあわせて子育て支援の検討を行う必要がある
 どういったことが必要かの意見を頂きたい

→各委員からの意見

出合：テレワーク・在宅ワークが増えて、家庭のあり方が変わってきている

- ・ 家庭に第3者が来てもらって、子どもをみてもらうのか
- ・ 大人が家で仕事をして、子どもを預けるか？子どもの居場所がなくなって、親の仕事が進まないことが増えている
- ・ 家がどんな場所なのか？変わってきている
- ・ 大人は家で仕事だと、家はどんな場所なのか？子どもの居場所、親の居場所はどこに？
- ・ 居場所づくりが重要

青木：待機児童の解消で、子どもを預けっぱなしがそもそもいいことなのか

- ・ 預ける環境の場所についての市の検討は

こ未：保育所の預け先にしても0~1歳児の潜在待機が増えている状況の今後の対応

- ・ 居場所づくりについては、そもそも富良野に多くの居場所があったのか？といえばそうでもない
- ・ マスクウェアの取り組みに代表される「遊び場と職場」が一緒になった施設の検討も必要
- ・ また大人も子どもも居場所が必要であることはマチの賑わいや働き方の多様性への対応でも必要になってくることが予想される
- ・ 空き家も増えてくる状況での空き家対策としての視点も入ってくる

青木：児童館は民間でやっているところもあるので、民間の活用も今後のポイント

川村：リモートワークが増えることが予想されるが光ネットワーク整備が重要

- ・ 所得の低い方の家賃補助も検討が必要
- ・ 今後もワーケーション検討も必要であり、一極集中では本社機能の移転や企業誘致も必要
- ・ 一方で富良野の生活コストが高い
- ・ 生活スタイルの割に賃金が低いことが大きい
- ・ 札幌からの移住者からは札幌と生活コストが変わらない、札幌の方が便利なのにということを聞く
- ・ 住環境支援策のわかりやすい見える化が重要
- ・ また申請しない人には当たらないではなく、申請をデジタル化し、不公平感をなくすことが重要
- ・ 情報提供のあり方・情報の格差を変える必要がある
- ・ 保護者目線で行政の申請書類をわかりやすくする（行政の申請は難しすぎる）ことで、もらえるはずのものがもらえない不公平感をなくす
- ・ 特にコロナ禍なので、情報提供を丁寧に、色んな SNS での発信のあり方を検討すべき

こ未：市役所に来なくていい簡単な手続きが求められている

- ・ コロナ禍でタッチレス・ペーパーレス・ハンコレスなど国の申請書のあり方も見直しの時期で追い風が吹いているので、連動して進めていきたい

青木：先日、文科省の中村専門官と話した時に、コロナ影響でICTの予算化を加速させる動きがあるが、市としても検討中ですか

こ未：国の概算予算がでる時期で、来週あたりには国のデジタル分野の概算予算全体などが見えてくると思われる

- ・かなり大規模な予算編成になることが予想される
- ・ギガスクール構想は当初は5年ほどかけての予想だったが、コロナ禍で急速に進んでいる
- ・富良野は、いち早くその対応に乗っている状況

桑折：保護者の経済的支援も考える中で、在宅ワークを守る仕組みも必要

- ・そのためにも幼児教育保育の環境提供も必要
- ・特に、そのためには人材の確保が必要
- ・保育士・若い方の移住促進だけでなく、さらに生活を支えることが重要
- ・子どもたちの居場所づくりに必要な人材の生活を支える支援策が必要
- ・保護者は生活スタイルにあわせて住む場所を選ぶ時代なので、外から入ってくる人の支援として保育士の確保策・生活の支援策の視点
- ・保育士は女性が多いので、定着すれば出産にもつながる

青木：国が企業型保育所の支援を行ったことで企業型保育所が増えて、首都圏を中心に爆発的に増えた

- ・企業は人材確保に人件費や家賃助成を企業側が積極的に実施し、首都圏では企業は家賃助成に8万円、旭川でも家賃助成に5万円だして人材確保している
給与体系で負けている
- ・旭川市では、教育委員会が中心になって、保育士の就職フェアを合同で行っている
- ・そんな企業と人材確保で勝負しなければならない＝（だから富良野には人材定着が難しい）
- ・富良野も一体となって就職応援していく必要がある
- ・札幌にも圧倒的に保育士の給与で負けている
- ・一本釣りやコンタクトをとっていくのも難しいほど、札幌は囲い込みをしている
- ・教育の質の確保はやはり質なので、何とか人材の確保が必要

桑折：コロナが続くと収入が不安定になる

- ・奥さんも働かざるえない状況が増える
- ・では預け場所はどこか？支える人の確保が必要
- ・働く人の生活・ワークライフバランスを守っていく間接的な支援が保育士の人材確保とつながっていく

(3) 新庁舎の遊び場

→前提として、遊び場を整えることは「居場所を整える」ことになり、新庁舎の遊び場に限らず幅広い検討が必要と考える

- ・これまでの検討過程を共有するとともに、コロナ禍での遊び場のあり方が変わってきている
- ・基本的なコンセプト案についてご意見やコロナ禍での遊び場のあり方についてご意見をいただきたい

川村：全然狭い

- ・3密回避と言ってるのに、密になることが想定される

青木：乳幼児に特化した施設ですか

こ未：乳幼児、2～5歳が中心で、0～1歳は入口の別部屋
小学生は難しいと考える

青木：環境動線を検討する必要がある
子ども同士がぶつからないように動線を専門家にみてもらう必要がある配慮

桑折：静と動をはっきりとした間仕切りで確保する
静が好きな子どもと動が好きな子どもは事前に分けてあげる

山崎：最初の目的が、「雨が降った時や遠くに行けない」と考えた場合は、普段遊べない遊びを中心にママごとではない、発散を中心に考えた方がいい

- ・何人くらい入れるのか？静と動の日を別の日にわけると工夫や人数制限はどうするのか？
コロナで発散できていないことを考慮すると、動けることに特化した方がいい
家でできないことを求めてくるだろうから
コンセプトの動物やロッククライミングはいいなと思う
- ・児童館などにもないものも魅力
- ・赤ちゃんが安心できる部屋と2～3歳の静の部屋も別にすべき

出合：対象が未就学児となっていますが、小学校低学年も下の子と一緒に連れてあることが多い

- ・小学生も入れない施設になると一緒にいけない施設になってしまう
- ・小学3～4年までも遊べる高さを活かしたつくりにしてほしい

青木：既成の遊具では難しいけどやりようはある

川村：誰でも入れるスペースですか
管理者はつけませんか

こ未：基本は誰でもOKと考えています
・今の段階では管理者常駐は考えていません(最終決定ではない)
・衛生管理は業者に依頼想定

川村：誰でもOKではなく登録制にしては
・人数制限(管理)も検討しては
・誰かついてくれた方が事故防止観点や入場者がいっぱいになった場合への対応など
必要ではないか

桑折：コロナ禍なので、時間制限を設けて衛生管理するとか
・管理しやすい、衛生管理しやすい遊具、長く使える遊具がベースになる

青木：空調関係はどうなってくる？

山崎：安全管理の責任。何かあった時の責任はどこにくるのか色々決めておく必要がある

こ未：ここだけで満足できる空間は難しい

新庁舎のコンセプトとしても、集いにぎわうとあるので、市役所に来た時にちょっと遊べるスペースがあるというカタチのイメージ

- ・また子育て支援センターは登録制なので、使える日が限られる
- ・一定程度自由に使える空間として開放

- ・ 緑町の児童館を今年から解放しているので、そういった施設とのすみ分け・使い分けもあわせて考えていきたい

出合： 緑町の児童館は小学生が使えない

- ・ 日曜に小学生もいる兄弟の家庭では当てはまらない
- ・ 富良野の色んな施設がある中で、使われない原因は「できない」「入れない」の制約が多くて、事前にその情報が保護者の中で共有されていて、あの施設使えないね～になっていることが多くて諦めていることが多い
- ・ 「できない」というというイメージがついていて、そうではなくて「できる」ところを少しづつ増やしていかないと、コロナでできないことが増えているので、今できることを増やしていくことが大事ではないか
- ・ 管理者側と保護者側が歩みよってできるところを増やしていくことが大事
- ・ コロナ禍でできないことが増えたのでなおさら

こ未： 今年からスタートさせたので、柔軟に対応していくことは可能

山崎： 小学低学年と未就学児がセットになって遊べるところが、富良野にはないので

- ・ 低学年までは、保護者としても手がかかるので、空き施設の活用検討も必要

7. その他

- ・ 次回、1月下旬の開催を検討
- ・ 本日の意見を反映した次年度以降の支援策についての意見交換を想定しています

8. 閉会